

【理学部第二部化学科】

卒業認定・学位授与の方針[ディプロマ・ポリシー]

理学部第二部・化学科では、真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持するために、学則に定められた所定の期間在学し、以下の知識、能力を身に付け、学科が定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学士（理学）の学位を授与する。

1. 「基礎科目」「専門科目」の履修によって、化学に関する基礎的な知識やそれを修得するための技法を利用して論理的に思考する能力、並びに自らの意見を表現するためのコミュニケーション能力（記述、プレゼンテーション等）。
 2. 「一般教養科目」の履修により、社会、文化、環境等の観点から科学の役割と責任を論じることができ、国際的な広い視野と高い倫理観を身に付け、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる能力。
 3. 修得した専門知識や教養をもとに、根本的な問題に対峙した時に創造的な発想を得て、問題を探求し、自律的に知的能力を発展させる能力。
 4. 修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力。
- 上記1～4の能力を統合的に実践し、課題発見力、解決力を養う機会として、最終年度に卒業研究を遂行し、最先端の化学研究分野に触れ理解を深め、自らの習得内容を発表する。

教育課程編成・実施の方針[カリキュラム・ポリシー]

1. 化学は物質に関するあらゆる知識を基に新しい物質を作っていく学問である。化学の知識を使えば分子の性質を理解することができ、さらにその成果を応用して新たな物質を創生することもできる。科学技術における幅広い分野の基幹をなす学問である。このため、化学の基礎に関する正しい理解と、幅広い応用分野に関する広い知識を持った人材を育成する。
2. 真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持し、厳格な教育課程を実践する。段階的な知識の修得を図るため、一般的素養を深めるための「一般教養科目」、各専門分野の基盤をなす「基礎科目」及び「専門科目（必修）」、各専門分野に応じた進路に必要な能力を養うための「専門科目（選択）」を体系的に配置する。
3. 化学の本質を理解するために必要な物理化学・無機化学・有機化学に重点をおいて「基礎科目」をおき、これらの履修を1年次から2年次への進級に必要な条件（関門科目）とする。
4. 実験実習を重視し、化学の実験操作を実践的に学ばせ、レポート作成やプレゼンテーションを行うことにより、自らの考えや意見を他者に正確に伝える能力およびコミュニケーション能力を培う。また、物質に対する探究心と理論的な考察能力を身に付けさせる。
5. 「一般教養科目」では、教員、研究者、企業人・公務員等様々な学生の進路に対応できるよう、多彩な教育課程と時間割を備え、グローバル化・ユニバーサル化に対応できる幅広い教養を持つ人材を育成するとともに、厳密な論理的思考力を身に付け、情報の収集・発表の方法を学び、多様な価値観を持つ他者と協働で物事を勧められるようになることを目標とする授業科目を配置する。
6. 英語教育においては、少人数クラスや習熟度別クラスを取り入れ、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
7. 「一般教養科目」、「基礎科目」、「専門科目」では、各専門分野に応じたキャリア教育、倫理観を養う内容を含む科目を配置する。
8. 学士課程の集大成として、最終年度に卒業研究を配置し、最先端の化学を研究実験等を通じて実践的に身に付けさせる。また、社会人学生など時間的に実践的な研究が困難な学生に対しては、ゼミ形式の卒業研究科目を配置することによって、化学に関わる幅広い内容を身につける場を設ける。
9. 理科教員を目指す学生のために、理学部第一部との授業相互乗り入れ制度も導入し、4年間で教職課程を履修できる教育課程を実施し、未来の教育者をバックアップするため、卒業後の再教育の場を提供する。
10. 社会人学生も4年間で卒業が可能となるような時間割編成とする。
11. 大学院科目の先行履修も可能とすることにより、勉学意欲の高い学生の要望にも答えられる形にする。

入学者受入れの方針[アドミッション・ポリシー]

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、本学の教育理念のもと、

1. 高等学校課程での学習内容を十分に修得の上で、理学系に必要な基礎知識、思考力、判断力、表現力を備え、化学の学習に必要な学力を有する人。
2. 多様な価値観と目的意識を持つ幅広い年齢層の学友とともに勉学や生き方を学び、豊かで活気溢れる大学生活を送ることができる人。
3. 社会人学生においては、勉学と職業を両立させ、経済的に独立していく意欲があり、幅広い教養、国内外で活躍できるコミュニケーション能力を積極的に身に付ける意思のある人。

4. 自らの考えを表現する力を備え、主体的に多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人。

以上のような人物を下記の多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(A 方式入学試験)

幅広い科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を大学入学共通テストの得点を用いて選抜する。

(B 方式入学試験)

高等学校段階までの基礎知識と、それを応用する能力、思考力、判断力を持つ人を数学、英語、理科（化学）の3科目の独自の学力試験で選抜する。

(学校推薦型選抜（指定校制）)

高等学校までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、化学を学ぶことに対しての意欲が強く、夜間学部で学ぶ明確な目的意識を有する人で本学を第1志望とする人を、書類審査、面接、口頭試問により選抜する。

(総合型選抜（理学部第二部）)

本学の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲と夜間学部に入學する明確な目的意識を持つ本学を第1志望とする人を、書類審査、小論文、面接、口頭試問により選抜する。

(社会人特別選抜入学試験)

社会人として得た多くの貴重な経験を有し、それに基づく判断力、思考力、学問に対する姿勢や考え方をもち、目的意識をもって化学を自ら学ぶ意欲のある人を、書類審査、面接・試問等により選抜する。

(帰国生入学者選抜)

海外の勉学環境で得た様々な経験や、異文化の中で育まれた個性や教養、学問に対する姿勢や考え方等、国内の勉学環境では得られない様々な能力、化学を学ぶ意欲を有する人を、書類審査、面接・試問等で選抜する。

(社会人特別選抜編入学試験)

社会人を対象として、勉学に対する強い意欲を持ち、夜間学部入学に関して明確な目的意識を持つ人を選抜する。

(一般編入学試験)

これまでに打ち込んできた学問に真摯に向き合った結果、方針転換を考え、自分に合う学問として改めて化学を学びたくなった人や、理科の教員免許を取得して教員になりたい人で、勉学に対する強い意欲を持ち、夜間学部入学に関して明確な目的意識を持つ人を選抜する。